

保護区“いちゃびらー”の利用実態調査

(資源管理高度化推進事業)

上原匡人¹・太田 格²

1. 目的と背景

沖縄県の漁船漁業における重要な漁獲対象資源であるアオダイ、ハマダイ、ヒメダイ、オオヒメのフエダイ科4種を含む深海性フエダイ類の漁獲量は、1980年頃をピークに急減し、2004年以降、盛期の約1/10で推移している(田邊・青沼、2016)。このような現状を受け、琉球列島海域では、特に漁獲量の多いアオダイ、ハマダイ、ヒメダイおよびオオヒメの4種(以下、特に記載がない限りは、マチ類はこれら4種を指す)を対象に、2005年より資源の維持・回復を図るための取り組みを実施している。北部地域でも、“いちゃびらー”の保護区を設定して資源管理に取り組んでいるが、利用実態については不明な点が多く、その解明が求められている。本部駐在では、平成27年度より北部海域でのマチ類の漁獲状況と漁場の利用状況を把握するための調査を行っている。今年度もこれまで同様に調査を行ったので、沖縄海区漁業調整委員会指示の履行確認と努力目標(小型魚が獲れた場合は漁場移動)の達成状況を報告する。

2. 方法

2017年4月～2018年3月に、沖縄島の中・北部地域でセリを開設している市場のうち、国頭、名護、恩納、石川漁協のセリ市場を巡回し、漁協者や漁協関係者からの

漁場の聞き取りに基づき、沖縄海域で漁獲されたマチ類4種の1山あたりの重量と尾数を記録した。体長組成の算出方法は、上原ら(2018)に従った。

3. 結果と考察

(1) 漁場の利用状況

北部海域におけるマチ類の漁場は、これまで同様、漁業者の拠点となる漁港や港湾により左右されていた。すなわち、本島北部の西側に拠点を有する海人は主に西側の漁場を、東側に拠点を有する海人は主に東側の漁場を利用しており、過去の調査結果と一致した(上原・中村、2017, 2018)。西側の漁場としては、奄美海域、与論周辺海域、偉業曾根、硫黄島、伊平屋島および伊是名島周辺、伊江島周辺、読谷沖を利用していた。また、東側の漁場として、国頭村の東海岸から東村にかけての沖合(“いちゃびらー”を含む)、辺野古沖、金武湾沖を利用していた。保護区である“いちゃびらー”については、今年度も調査期間中の利用は確認できなかった。

なお、北部の漁業者が宝山・大九曾根や八重山周辺海域で操業する例も確認された。

(2) 水揚げされた尾又長組成

沖縄海域では、ハマダイ30cm未満、アオダイ、ヒメダイ、オオヒメ20cm未満が漁獲された場合には、努力目標として漁場

¹ 水産海洋技術センター本部駐在

² 水産課漁業管理班

移動を推奨している。中・北部地域のセリ市場で水揚げされたマチ類 4 種の尾又長組成をみると、これらの体長未満の個体が占める割合はハマダイが 16.8%、アオダイが 0.4%、ヒメダイが 2.8%、オオヒメが 7.0% (図)。アオダイを除く 3 種の値は、県内のマチ類の水揚げの 9 割以上の水揚げを誇る泊魚市の水揚げ状況と比べて、同等あるいは高い値を示した(上原ら, 2017a, 2018)。しかし、ハマダイやアオダイでは、現行の漁獲圧を維持し、小型魚を保護する管理策を継続しても、資源の大幅な回復は見込めないことが示されており(海老沢ら, 2009; 上原ら, 2017b, 2017c)、今後、大幅な漁獲圧削減に向けた取り組みが急務である。なお、ハマダイでは、成熟サイズ(67 cm : Uehara et al. 2018)以上の個体は、昨年同様、ほとんど水揚げされなかった。

今後、中・南部も含めて引き続き調査を進めていく必要はあるが、保護区に重きを置いた管理策を展開するのであれば、海域単位で管理を行っていく必要性を考慮すると、他の保護区に比べて圧倒的に依存度が低いことから、周年保護区を設定することが有効な手法となろう。

4. 引用文献

海老沢明彦・平手康市・山田真之(2009) 琉球列島産ハマダイの資源管理方法の検討. 平成 20 年度沖縄県水産海洋研究センター事業報告書, 70 : 23-27.
田邊智唯・青沼佳方(2016) 平成 27 年度マチ類(奄美・沖縄・先島諸島)の資源評価. 平成 27 年度我が国周辺水域の漁業

資源評価第 2 分冊, 1200-1237.
上原匡人・中村博幸(2017) 保護区“いちやびらー”の利用実態調査. 平成 27 年度水産業改良普及活動実績報告書, 41-42.
上原匡人・中村博幸(2018) 保護区“いちやびらー”の利用実態調査. 平成 28 年度水産業改良普及活動実績報告書, 26-28.
上原匡人・島田和彦・秋田雄一・太田 格・海老沢明彦(2017a) 2014 年度に沖縄海域で漁獲されたマチ類 4 種の漁場別漁獲量および体長組成. 平成 26 年度沖縄県水産海洋技術センター事業報告書, 76 : 72-88.
上原匡人・太田 格・海老沢明彦(2017b) 沖縄海域におけるアオダイの資源評価. 平成 26 年度沖縄県水産海洋技術センター事業報告書, 76 : 45-52.
上原匡人・太田 格・海老沢明彦(2017c) 沖縄海域におけるハマダイの資源評価. 平成 27 年度沖縄県水産海洋技術センター事業報告書, 77 : 21-31.
上原匡人・甲斐哲也・島田和彦・太田 格・海老沢明彦・秋田雄一(2018) 2015~2016 年度に沖縄海域で漁獲されたマチ類 4 種の漁場別漁獲量および体長組成. 沖縄県水産海洋技術センター事業報告書, 78 : 46-70.
Uehara M, Ebisawa A, Ohta I (2018) Reproductive traits of deep-sea snappers (Lutjanidae): Implication for Okinawan bottom fisheries management, *Regional Studies in Marine Science*, 17: 112-126.

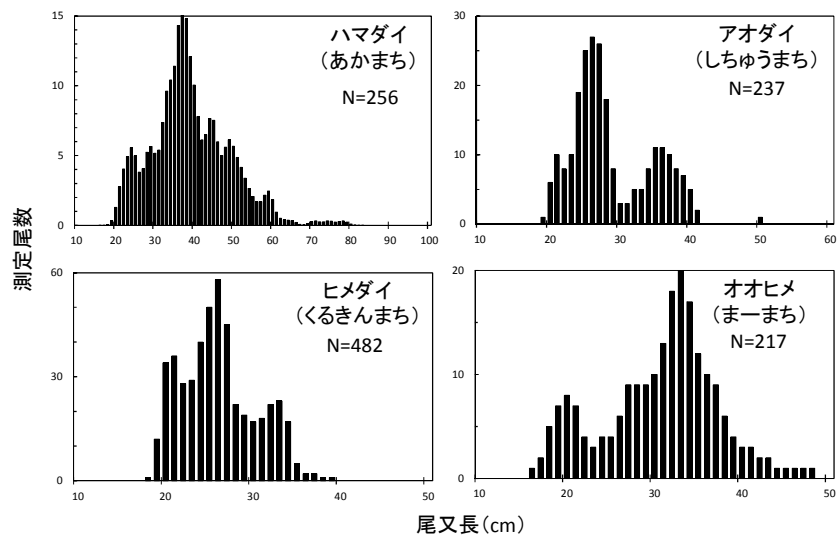


図 2017年度に中・北部地域のセリ市場に水揚げされたマチ類4種の尾又長組成。これらの漁場は、沖縄島北部の東西全体で漁獲された個体を集計。